

第一〇五回 日本医史学会 総会 演題目次

会長講演

D・B・シモンズ知見補遺

荒井保男……………六

特別講演(1)

漢方製剤の医史学的検討

菊谷豊彦……………二〇

特別講演(2)

お玉ヶ池種痘所——その設立拠金者八二名誤謬説の起源をさぐる

深瀬泰且……………二三

一般演題

- | | | |
|----|---|-------------------------|
| 1 | ホワイト・ヘブン・サナトリウムとローレンス・F・フリック医師 | 青木國雄……………一六 |
| 2 | フライブルク大学と北海道大学医学部との産婦人科・新生児領域における交流の歴史 | 鈴木重統・宮下舜一……………二〇 |
| 3 | 江戸時代の看護書『病家須知』の著者平野重誠の背景——家系を中心に | 中村節子・平尾真智子……………二三 |
| 4 | リンダ・リチャーズ来日直後の足跡(一八八六年、横浜から京都へ) | 岡山寧子・依田和美……………二四 |
| 5 | GHQによる看護改革の流れ——GHQ看護課GLE-Alt課長に対する協調と対立の構図(一) | 大石杉乃……………二六 |
| 6 | 日本で最初の看護婦留學生とセント・トマス病院 | 芳賀佐和子・住吉蝶子・平尾真智子……………二六 |
| 7 | 佐伯理一郎とペンシルバニア大学留學——大學便覽(一八八七〜八八)から得た若干の知見 | 渡辺昭彦……………二八 |
| 8 | 中津藩医山辺文伯と産育編について(二) | 石原力……………三三 |
| 9 | ロイヤル・ブロンプトン・ホスピタルの設立について | 柳澤波香……………三四 |
| 10 | 『解剖学表』(『解体新書』の原著、いわゆる「ターヘルアナートミア」)異版の研究——第一報 | 石田純郎……………三六 |
| 11 | ガレノスとヴェサリウスの解剖学の比較研究(三)——門脈を例にとって | 坂井建雄……………三八 |
| 12 | スペイン宮廷のヴェサリウス | 泉彪之助……………四〇 |
| 13 | Thomas WillisのCerebri Anatomieに見る中枢神経・機能発現の機序 | 門田栄治……………四三 |
| 14 | コロトコフの聴診による血圧測定の見聞 | 藤倉一郎……………四四 |
| 15 | 二十世紀初頭のイェルサレムにおけるマラリア | 馬場わかな……………四四 |

16	十九世紀アメリカ合衆国におけるヘルス・リフォーム——菜食主義の社会的・文化的地平	鈴木七美
17	内藤記念くすり博物館蔵「浅田宗伯の薬箱」について	中村輝子・遠藤次郎・ヴォルフガング ミヒェル
18	『衆方規矩』の編纂者の問題	遠藤次郎・中村輝子
19	多紀家文書（北里医史研究所蔵）の概要	小曾戸洋・町泉寿郎
20	麻疹の周期性と近代日本の疫病伝播の分析	鈴木晃仁
21	十九世紀後半の神奈川県における天然痘と種痘の状況	川部裕幸
22	GHQ文書による占領期のハンセン病関係史料の研究	杉田聡・丸井英二
23	近代横浜における天然痘・種痘統計の分析	市川智生
24	江戸時代の梅毒をめぐる意識について	鈴木則子
25	大正期東京市における腸チフスの地区別分析	永島剛
26	戦後期に発生した予防接種後の四つの接種結核事故について	渡部幹夫
27	「杉山真伝流」の継承者たち——江戸中期鍼灸術の精粹・杉山真伝流を完成・継承した人々	大浦宏勝・花輪壽彦・石野尚吾 宮川浩也・石野尚吾・花輪壽彦
28	「中華医鍼様譜」について	中川俊之
29	隋唐期脈状記載との比較による二十四脈状の検討	吉岡広記
30	『千金方』に見られる唐以前諸家灸法について	木場由衣登
31	『外臺秘要方』卷三十九に引用される『明堂』条文について	上田善信
32	『聖濟総録』鍼灸門所引の『甲乙経』について	宮川隆弘
33	『鍼灸阿是要穴』について	堀江奨
34	『靈枢』に見える「針」字と「鍼」字	柳田純子
35	精神科作業療法職の専門分化課程の考察（一）——昭和四〇年の資格化に伴う職務への影響	柴田幸雄
36	旧制高校理科（乙）および旧制医科大学予科における語学教育、リベラルアーツと現在	江川義雄
37	広島原爆投下時の県並びに市医師会長の活動について	萌昭三
38	十五年戦争と日本民族衛生学会（協会）（その二）——学会活動と「国民優生法」の制定	萌三

39	電磁波による生体影響の研究・治療の歴史	奈良圭之輔・岩井信市・横地章生・小口勝司	三〇
40	日本における医学映画の淵源	寺畑喜朔	三〇
41	住民による健康増進活動の形成——長野県八穂村における実践から	杉山章子	三〇
42	中国における村医の養成と医学教育——はだしの医者への再訓練	三橋かほり	三〇
43	済生学舎出身の細菌学者・浅川範彦について——野口英世の伝染病研究所時代の師	唐沢信安・殿崎正明	三〇
44	東京養育院医員時代の光田健輔について	平井雄一郎	三〇
45	ベルツの北海道訪問と新史料「石狩紀行」(関場)	宮下舜一	三〇
46	石黒忠憲と野口英世——石黒不内文庫調査第一報	町泉寿郎・小曾戸洋	三〇
47	高松凌雲(一八三六—一九一六)とフランス	小林晶	三〇
48	長与専斎と「衛生意見」の意義	笠原英彦	三〇
49	オットー・モーニツケの博物学研究	相川忠臣	三〇
50	新潟県西洋医学教育の嚆矢 J.P.I. VIDAL の碑除幕式	清水陽人	三〇
51	A・F・ボードインの大坂病院における診療記録と眼科講義ノート	中山沃	三〇
52	フランスから来た紙塑人体模型と明治初期日本における人体解剖模型製作の開始	月澤美代子	三〇
53	近代上海における岸田吟香の医薬事業について(一八六〇—一八九〇)	丁蕾	三〇
54	新出資料『裡園先生叢話』について——高岡佐渡家文書から	正橋剛二	三〇
55	杉田立卿と江戸における文化十年の乳癌手術	松木明知	三〇
56	安中板倉藩の人口問題と対策	清水英一	三〇
57	内藤記念くすり博物館蔵「鱈石」の袋の書付について	後藤志朗・中村輝子・遠藤次郎・ヴォルフガング ミヒエル	三〇
58	中野康章と大同薬室文庫 現在の利用状況と今後のデジタルアーカイブ化について	野尻佳与子・青木允夫	三〇
59	『今川義元伝書』における腹診の検討	鈴木達彦・遠藤次郎・中村輝子	三〇
60	『解体発蒙』に引用される中国医学古典	友部和弘・石野尚吾・花輪壽彦	三〇
61	馬王堆医書『養生方』の再検討	天野陽介・宮川浩也・花輪壽彦	三〇

62	『范汪方』について……………	浦山	きか	一四〇
63	道教と中国医学(第二十四回)『太上感應篇』……………	吉元	昭治	一四三
64	薛己の外科治療概念の考察……………	西卷	明彦	一四四
65	唐代における『千金方』の形跡……………	郭秀	秀梅	一四四
66	京都大学整形外科学教室初代教授 松岡道治先生の業績……………	廣谷	速人	一四六
67	近代医学への道を歩んだ西井格太郎の履歴……………	西井	易穂	一四六
68	満州医科大学旧蔵古医籍の行方……………	真柳	誠	一四五
69	台湾国立中央図書館所蔵の医心方鈔本について(誌上発表)……………	杉立	義一	一四四
70	『日本書紀』の中の身体に関わる表現……………	計良	吉則	一四五
71	明治十五年施行の旧刑法二五六条「私ニ医業ヲ為ス罪」と大審院での判決事例……………	樋口	輝雄	一四五
72	私宅監置室の実際——各府県における精神病者監護法取扱手続の比較……………	橋本	明	一四六
73	正骨家吉原杏蔭齋に関する新資料とその門下生……………	蒲原	宏・川島眞人	一四三
74	近代白内障手術の変遷と小院での日帰り手術……………	鈴木高遠・千種浩司		一四四
75	鶴見大学図書館所蔵の紅毛流膏葉集と紅毛流膏方について……………	中西	淳朗	一四六
76	吉益東洞『古書医言』引『心卵経』攷……………	舘野	正美	一四六
77	本間策軒『内科秘録』にみる癲狂説……………	岡田	靖雄	一七〇

原著

Hippocratic Medicine and Philosophy at the End of the 20th Century (I)……………Spyros MARKETOS……………一七〇

《本号の表紙絵》

米医・D. B. シモンズ像

横浜医学の源流と尋ねると、有名なヘボンとシモンズにつき当る。ヘボンは宣教師であり、医療を布教の目的とした。シモンズ (Duane B. Simons) もまた宣教師兼医師として来日したが、医を以て身を立て、横浜の医学の近代化に大きく貢献した人である。

アメリカ・ニューヨークに生れ、横浜開港直後の安政6年11月に宣教師兼医師として来日、居留地に開業したが、明治7年2月野毛山上に十全医院が開設されるや、全権を与えられて診療、教育、研究に専念した。その業績は医学全般にわたるが、特記すべきは脚気の研究で、その原因を米飯に求めて、当時の代表的脚気研究者の第一人者となった。梅毒の治療にすぐれ、コレラの予防に力をそそぎ、病理解剖を行い、名医の誉れ高く、巷間に流布した「セメンエン」はシモンズの創始とされる。

明治13年3月一旦帰国したが、明治19年12月再来日、福沢諭吉の知遇を得て、三田山上に居を構え、「時事新報」紙上に日本文化擁護の健筆をふるったが、病を得て、明治22年2月客死した。

(荒井保男)